



第 **62** 期

中間期 株主の皆様へ

平成24年4月1日 ▶ 平成24年9月30日

Contents

私たちってこんな会社です。……………	1
連結財務ハイライト……………	2
トップインタビュー……………	3
セグメント別の概況……………	5
トピックス……………	7
アンケート結果のご報告……………	8
連結財務諸表……………	9
会社の概要・株式の状況……………	10

私たちってこんな会社です。

高千穂交易は、産業と社会に新しい価値を提供します。

当社の提供する製品は、街やオフィス、家庭など、皆様の身近なところで広く活用されています。

家庭

PC・デジカメ・スマートフォン(半導体・電子部品)



図書館

RFID図書館システム



ショッピングセンター

万引き防止システム



Pickup !

オフィス

入退室管理システム



ネットワークシステム

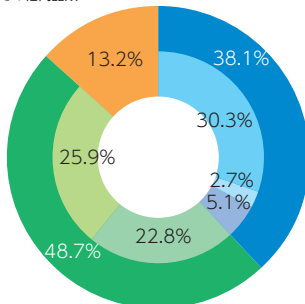
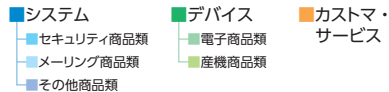


銀行

ATM: 現金自動預け払い機(スライドレール)



セグメント別売上構成比



セグメント別：主要取扱い品目と売上構成比

システム

セキュリティ商品類

リテール：万引き防止システム、CCTVシステム、入店カウンターシステムなど
 オフィス：入退室管理システム、資産持出し防止システムなど

メーリング商品類

メールインサートシステム、アドレッシング用インクジェットシステム、ラベリングシステムなど

その他商品類

ネットワークセキュリティ関連機器、RFID図書館システムなど

デバイス

電子商品類

半導体、シリコンマイク、各種センサーなど

産機商品類

スライドレール、ガススプリング、昇降システムなど

カストマ・サービス

システム機器の設置・保守、コンサルティング及びシステム設計、システム運用受託など

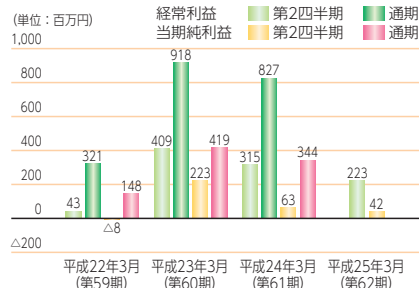
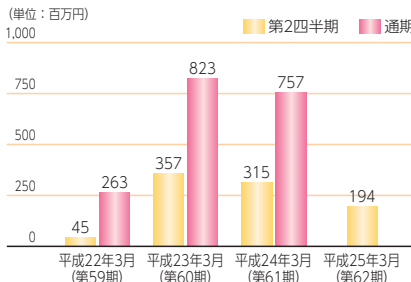
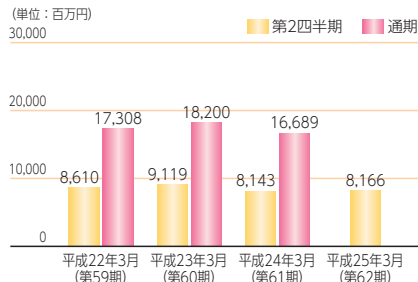
連結財務ハイライト

Consolidated Financial Highlights

売上高 **81億66百万円**
(前年同期比 **△0.3%増**)

営業利益 **1億94百万円**
(前年同期比 **△38.2%減**)

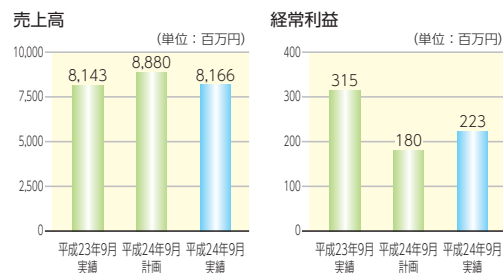
経常利益 **2億23百万円**
(前年同期比 **△29.1%減**)
四半期純利益 **42百万円**
(前年同期比 **△33.0%減**)



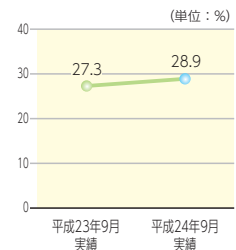
平成25年3月期 第2四半期決算のポイント

- 前年同期比では増収減益も、経常利益計画はクリア
 - 電子商品類が減収になるも、産機商品類や前年度新たに加わった連結子会社の販売貢献により、全体として前年同期比で僅かに増収。
 - 売上高は計画比マイナスとなるも、引き続き売上総利益(粗利益)率は改善。
 - 投資コスト(のれん償却)1億円を吸収して営業・経常利益は計画を達成。

売上高・経常利益の前年同期及び計画との比較



売上総利益(粗利益)率の推移



通期見通しのポイント

- システムセグメントでは、既存顧客の維持拡大や、アパレルを中心とした万引き防止システム未導入顧客への販売強化に加え、新連結子会社のRFID大口案件獲得等により増収計画。
- デバイスセグメントでは、電子・産機商品類とも、上期からの施策実行を強化し増収計画。

売上高	19,000百万円 (前期比 13.8%増)
営業利益	820百万円 (前期比 8.3%増)
経常利益	840百万円 (前期比 1.6%増)
当期純利益	420百万円 (前期比 21.9%増)

TOP INTERVIEW



ごあいさつ

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社第62期中間期(平成24年4月1日から平成24年9月30日まで)の事業活動の概況をご報告申し上げます。

平成24年12月

代表取締役社長 戸田 秀雄

➤ Q まずは上期の業績と下期に向けての抱負を聞かせてください。

今年度は、「独自の付加価値の創出」と「グローバルビジネスの本格展開」を中期事業方針に掲げその実現に取り組んでいますが、上期の売上高は、電子商品類が大幅な減収となった一方で、産機商品類が好調に推移したことに加え、前年度新たに加わった連結子会社の販売貢献により、僅かながら前年同期を上回る結果となりました。

損益につきましては、企業買収に伴う販売費及び一般管理費の増加等により、営業利益・経常利益ともに前年同期比減益となりましたが、のれんの償却を織り込んだ年初利益計画を上回る結果となりました。

内訳を見てみると、遊技市場向けや中国のATM(現金自動預け払い機)向け機構部品の好調な産機商品類が前年を大幅に上回る実績を上げました。また、セキュリティ商品類では、データセンターで入退室管理システムの新商品が採用されたほか、アパレルショップ向けの販売が好調に推移したことに加

えて、タイ現地法人でも売上を伸ばしています。また、前年度子会社化したマイティーカード(株)のRFID事業でも大口案件を獲得する等順調に成果が出始めています。一方で、電子商品類では、ゲーム機市場でシリコンマイクなどが好調に推移しましたが、産業機器市場へのアナログ商品の拡販の遅れなどにより、本格的な回復には至っていません。

各事業分野とも独自の付加価値で競争力の高い事業展開を図るとともに、グローバルビジネスを更に推し進め、年度計画達成に向けてグループ全社を挙げて取り組んでまいります。

➤ Q グローバルビジネスが進展しているようですね。

はい、昨年度買収したタイ現地法人に加えて、TK香港でも売上が前年を上回る等、「グローバルビジネスの本格展開」による成果が出始めています。

具体的には、タイでは洪水からの復興需要もあり、従来からの取引先に加えて新たな日系企業との取引も拡大し、セキュリ

ティシステムや防災機器等の売上を順調に伸ばしています。また、小売業分野でも日系企業の新規出店が活発化し、万引き防止システムや防犯カメラなどの商談が進展し始めています。下期も引き続き日系企業との取引を拡大するとともに、新商品のラインアップも増やして製造業や小売業分野の新規顧客開拓に注力してまいります。

一方で香港では、日本からの移管ビジネスを確実に取り込むことで、アナログ製品を中心に電子商品類の売上が回復するとともに、産機商品類ではATM(現金自動預け払い機)向け機構部品等が好調で売上を伸ばしています。また、現地に設計・開発機能を持つ顧客への対応力を強化し、現地での自力営業活動も推進しております。更には、上海を含めて産機商品類を中心に台湾・中国ローカル企業との取引を拡大するとともに、新たな現地メーカーの発掘・育成を通じた新規の市場開拓にも注力してまいります。

こうした動きに加えて、自鳴式万引き防止装置を中心に各種セキュリティシステムを開発・製造・販売する子会社の(株)エスキューブにおいても、新たに香港支店を開設して中国ローカル市場を開拓する等、国際競争力強化に向けた取り組みを始めています。将来的には、TKグループ全体で中国・東南アジア各国にビジネス基盤を拡大することを展望し事業を展開していきたいと考えています。

▶ Q 電子商品類の状況はいかがですか。

電子商品類は、パワー系を中心としたアナログ半導体製品、MEMS製品、通信系デバイス等のビジネス展開に注力しております。この上期は、引き続き厳しい環境が続く中で、これまでラインアップを拡充してきたMEMS製品の一つであるシリコンマイクがゲーム機や携帯電話向け等で好調だったほか、通信系デバイスは携帯電話や通信基地局向けで堅調に推移しまし

た。しかしながら、最重点市場と位置付け販売活動を強化している産業機器市場向けのアナログ半導体を中心としたビジネスにおいては、顧客の設備投資調整等の影響を受け苦戦が続き、その結果、電子商品類全体の売上は、前年同期比減収を余儀なくされました。

今後に向けても引き続き、産業機器市場向け販売重点強化との方針の下、新たに取り込んだアナログ製品を当社独自の技術力を活かした提案活動により販売拡大を図ります。加えて移管ビジネスの確実な取り組みを始めとするグローバルビジネスの強化等により上期の遅れを挽回していきたいと考えています。



セグメント別の概況

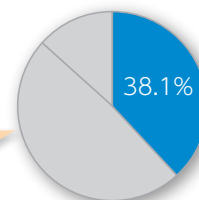
Segment Information

システム：RFID関連製品やタイ事業拡大等により、前年同期比増収

デバイス：電子商品類が減収ながら、産機商品類は大幅増収

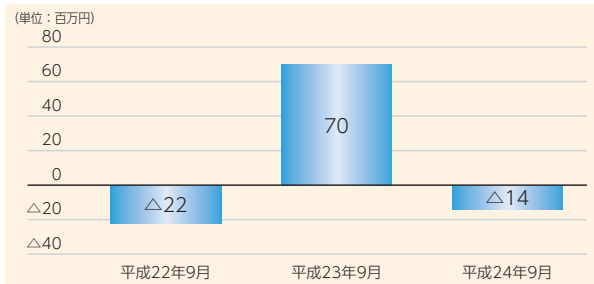
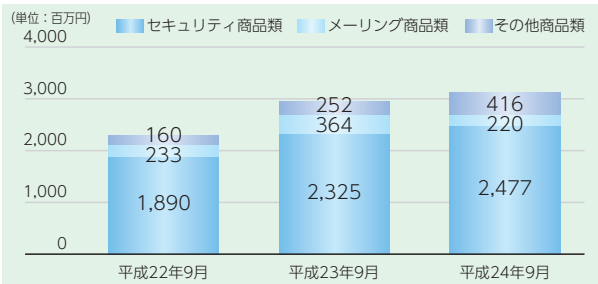
カスタマ・サービス：売上高は前年同期水準を確保するも、外注費増加などにより減益

システム 売上高は、前年同期比5.8%増の31億14百万円、営業利益はのれんの償却等により、前年同期比84百万円減の14百万円の損失



売上高
5.8%増

営業利益
84百万円減



セキュリティ商品類 (前年同期比6.5%増)

データセンターで入退室管理システムの新商品が採用されたほか、アパレルショップ向けの販売が好調に推移したことに加えて、タイ現地法人における大規模洪水からの復興需要や日系企業との取引拡大などにより、売上高は前年同期比6.5%増の24億77百万円となりました。



メーリング商品類 (前年同期比39.5%減)

インクジェットプリンターの新商品を立ち上げ、複数案件を獲得しましたが、主力の大型インサーティングシステムの納入の遅れなどにより、売上高は前年同期比39.5%減の2億20百万円となりました。



その他商品類(前年同期比65.0%増)

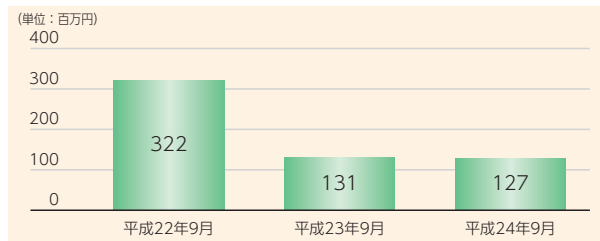
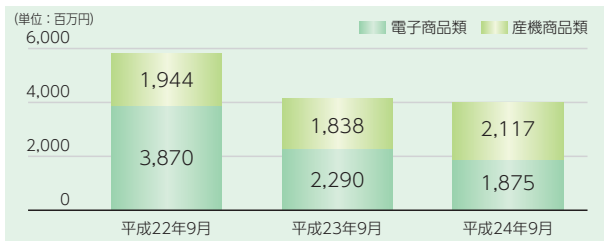
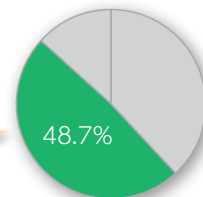
前年度子会社化したマイティカード(株)によるRFID事業での大口案件獲得などにより、売上高は前年同期比65.0%増の4億16百万円となりました。

※システムセグメントの事業区分変更に伴い、過年度実績を当期基準に組み替えております。

デバイス 売上高は、前年同期比3.7%減の39億75百万円、営業利益は前年同期比3.3%減の1億27百万円

売上高
3.7%減

営業利益
3.3%減



電子商品類(前年同期比18.9%減)

ゲーム機市場でシリコンマイクなどが好調に推移しましたが、産業機器市場へのアナログ商品の拡販の遅れなどにより、売上高は前年同期比18.9%減の18億57百万円となりました。



産機商品類(前年同期比15.2%増)

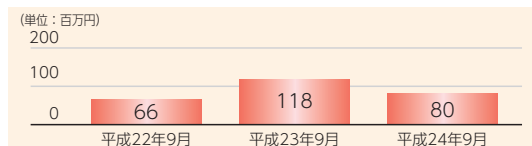
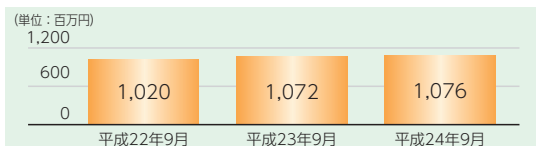
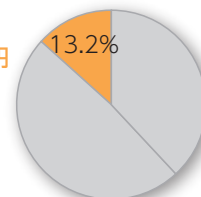
遊技市場向け機構部品の販売が前年同期から大幅に伸長したほか、中国向けに主力のATM(現金自動預け払い機)向け機構部品の販売が堅調に推移したことなどから、売上高は前年同期比15.2%増の21億17百万円となりました。



カスタム・サービス 売上高は前年同期比微増の10億76百万円、営業利益は前年同期比32.0%減の80百万円

売上高
微増

営業利益
32.0%減



新規保守契約の獲得などにより、売上高は前年同期比微増の10億76百万円となりましたが、サービス向上に向けた外注費の増加などから、営業利益は前年同期比32.0%減の80百万円となりました。



トピックス

ツルハグループ・タイ1号店様へセキュリティシステムを導入 ～TKセキュリティ事業のノウハウを活かした、アジアでのビジネス展開～

高千穂交易グループでは、「グローバルビジネスの本格展開」という新たな成長を見据えた中期事業方針を掲げ、その実現に取り組んでいます。その一環として、当社は昨年、タイでセキュリティシステム及び防災機器等を取り扱うTyco社の現地法人を子会社化しました(現：Takachiho Fire, Security & Services (Thailand) Ltd. (以下TKTH))。昨年タイでは、国内で発生した大洪水の被害により同国におけるビジネスは大きく停滞していましたが、今期は復興需要が高まりを見せ、小売業においても新規出店の増加が見られます。

このような中、TKTHでは、当社セキュリティ事業部の重要顧客であり、大手ドラッグストアチェーンのツルハグループ様より、「ツルハドラッグ ゲートウェイ・エカマイ店」向けに、万引き防止システムや防犯カメラなどのセキュリティシステムを導入いただきました。ツルハグループ様は、世界で20,000店舗の店舗展開を目指す長期ビジョンを掲げ、このタイでの出店を皮切りに、海外展開をスタートさせています。

採用に至った背景には、日本国内でのツルハグループ様とのお取引実績に加えて、TKTHが商品の供給だけでなく、設計・施工・メンテナンスまで日本国内同様のサービスを提供できることが挙げられます。また、Tycoグループが長年取り扱っていた万引き防止システムが、タイ国内でも確かな実績があること、そして今後ツルハグループ様が東南アジア全域に出店する際も、TKTHがTycoグループのネットワークを通じてサポートすることが可能なことなどがポイントとなりました。

このように、TKTHでは国内の小売業のみならず、ツルハグループ様を含めた日系企業のタイでの出店計画増加に伴う様々なセキュリティ需要に応えるため、日本国内と同様の商品・サービスを提供するだけでなく、現地のニーズに沿った競争力のあるビジネス展開をすべく、精力的に取り組んでおります。

当社グループでは、今後、これまで当社が長年にわたり培ってきたセキュリティ事業のノウハウを活かし、日系企業にとどまらずタイのローカル企業へ、更にはTycoグループとの連携により、タイから近隣アジア諸国へとビジネス基盤を拡大していくことを視野に入れ、活動を展開してまいります。



ツルハドラッグ ゲートウェイ・エカマイ店
オープン時の様子

設置された万引き防止システム(ゲート)

アンケート結果のご報告

「第61期株主の皆様へ」で実施させていただきましたアンケートにつきましては、全株主数の3.5%にあたる449名の株主の皆様よりご回答をいただきました。多くのご意見・ご感想をいただきましたこと、心より御礼申し上げます。

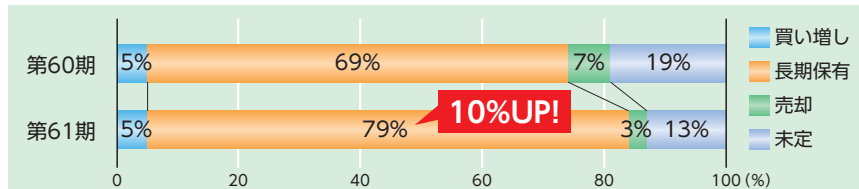
お寄せいただきましたご意見・ご感想は、今後の経営及びIR活動に活かしてまいります。

アンケート結果 (抜粋)



当社の株式に対し、
どのような方針を
お持ちですか。

当社株式の保有方針



前回(第60期)実績と比較し、「長期保有」を保有方針とする株主様の割合が10%増加し、有効回答の8割を超す株主様より、「買い増し」／「長期保有」との回答をいただきました。

当社は継続的かつ安定的な配当水準を維持することを配当政策の基本とし、引き続き当社株式を中・長期的に保有していただけるよう、経営の効率化、透明性、健全性の維持・向上を図ることにより、株主の皆様にとって魅力ある企業の実現を目指してまいります。

株主様からのご意見のご紹介

- これから国内市場は縮小していきますので、海外展開に期待しています。(40代男性)
- 新規開発分野へ積極的な投資を期待しています。(60代男性)
- セキュリティシステムをぜひ会社のメイン事業にして売り上げを伸ばしていただきたいです。海外にも積極的にチャレンジしていただきたいです。(30代女性)
- 海外事業展開の内容について現地レポートを掲示して欲しい。(40代男性)

当社は、前年度に子会社化した「Takachiho Fire, Security & Services(Thailand) Ltd.」(海外)及び、「マイティカード(株)」(国内)との事業シナジーを追求し、グローバル展開の加速や新規事業の更なる拡大を目指し活動を強化しております。

そうした成果の一つとして、今回の『株主の皆様へ』では、Takachiho Fire, Security & Services(Thailand) Ltd.の活動状況をご紹介しますので、P7のトピックス「ツルハグループ・タイ1号店様へセキュリティシステムを導入」をぜひご参照ください。

当社は、今後も引き続き、積極的な事業投資並びに海外展開を図るとともに、株主の皆様に対しましては、その進捗状況や成果等を随時ご報告してまいります。



連結財務諸表

Financial Statements

■ 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当第2四半期 平成24年9月30日	前 期 平成24年3月31日
(資産の部)		
流動資産	14,809	15,458
固定資産	2,614	2,831
有形固定資産	495	499
無形固定資産	1,038	1,170
投資その他の資産	1,079	1,160
資産合計	17,424	18,290
(負債の部)		
流動負債	3,222	3,894
固定負債	822	894
負債合計	4,044	4,788
(純資産の部)		
株主資本	13,285	13,409
資本金	1,193	1,193
資本剰余金	1,156	1,156
利益剰余金	11,233	11,357
自己株式	△298	△298
その他の包括利益累計額	△35	△37
新株予約権	20	16
少数株主持分	109	114
純資産合計	13,379	13,501
負債純資産合計	17,424	18,290

(注) 記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

■ 四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当第2四半期 平成24年4月 1 日～ 平成24年9月30日	前第2四半期 平成23年4月 1 日～ 平成23年9月30日
売上高	8,166	8,143
売上原価	5,807	5,918
売上総利益	2,358	2,224
販売費及び一般管理費	2,163	1,909
営業利益	194	315
営業外収益	30	19
営業外費用	1	18
経常利益	223	315
特別損失	60	94
税金等調整前四半期純利益	163	221
法人税、住民税及び事業税	79	141
法人税等調整額	42	16
法人税等合計	121	157
少数株主損益調整前四半期純利益	42	63
少数株主損失(△)	△0	△0
四半期純利益	42	63

(注) 記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

■ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	当第2四半期 平成24年4月 1 日～ 平成24年9月30日	前第2四半期 平成23年4月 1 日～ 平成23年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	143	1,416
投資活動によるキャッシュ・フロー	256	△647
財務活動によるキャッシュ・フロー	△168	△120
現金及び現金同等物に係る換算差額	△3	△16
現金及び現金同等物の増減額	226	632
現金及び現金同等物の期首残高	5,792	6,242
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,019	6,875

(注) 記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

会社の概要・株式の状況 (平成24年9月30日現在)

Corporate Data/Stock Information

■ 会社概要

設 立	昭和27年3月
資 本 金	11億9,381万円
従 業 員 数	256名 (単体)、467名 (連結)
取引金融機関	みずほコーポレート銀行、三菱東京UFJ銀行、三井住友銀行、りそな銀行、三菱UFJ信託銀行
主 要 業 務	セキュリティシステム、情報ネットワークシステム、ICタグ応用システム、半導体及び機構部品等の輸出入及び販売・据付・保守サービス並びにシステム設計・システム運用受託等サービス
ホームページ	http://www.takachiho-kk.co.jp/

■ 取締役・監査役

代表取締役社長兼社長執行役員	戸 田 秀 雄
取 締 役 兼 執 行 役 員	小 原 敬 一
取 締 役 兼 執 行 役 員	広 木 邦 昭
取 締 役 兼 執 行 役 員	平 山 英 樹
取 締 役	田 代 守 彦※
取 締 役	早 野 勉※
常 勤 監 査 役	武 智 良 泰
監 査 役	柴 崎 伸 雄※※
監 査 役	小 海 正 勝※※
監 査 役	石 原 良 一※※

(注) ※は社外取締役です。※※は社外監査役です。

■ 執行役員

執 行 役 員	市 川 陽 三
執 行 役 員	横 戸 憲 一
執 行 役 員	平 田 嘉 昭
執 行 役 員	高 山 博 喜
執 行 役 員	赤 堀 寛 人

発行可能株式総数	36,000,000株
発行済株式の総数	10,140,300株
株 主 数	11,490名

■ 大株主

株 主 名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社マースエンジニアリング	804,000	7.92
セ コ ム 株 式 会 社	450,000	4.43
日立オートモティブシステムズ株式会社	380,000	3.74
株式会社みずほコーポレート銀行	300,600	2.96
栃 本 京 子	300,000	2.95
山 村 秀 彦	268,500	2.64
株式会社マーストークンソリューション	265,000	2.61
竹 田 和 平	241,700	2.38
明治安田生命保険相互会社	216,000	2.13
高千穂交易従業員持株会	214,390	2.11

(注) 持株比率は、小数第3位以下を切捨てて表示しております。
当社は、自己株式349,669株を保有しておりますが、上記の大株主から除いております。

■ 株式分布状況



- 金融機関 28名 0.24%
- 金融商品取引業者 22名 0.19%
- その他法人 65名 0.57%
- 外国法人等 34名 0.30%
- 個人その他 11,341名 98.70%



- 金融機関 1,590,900株 15.69%
- 金融商品取引業者 177,450株 1.75%
- その他法人 3,007,572株 29.66%
- 外国法人等 48,660株 0.48%
- 個人その他 5,315,718株 52.42%

株主メモ

- 事業年度 4月1日～翌年3月31日
- 期末配当金 3月31日
受領株主確定日
- 中間配当金 9月30日
受領株主確定日 (中間配当を実施する場合)
- 定時株主総会 毎年6月
- 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社
証券代行部
〒137-8081
東京都江東区東砂七丁目10番11号
TEL 0120-232-711
(通話料無料)

【株式に関するお手続き用紙のご請求について】

特別口座に記録された株式に関するお手続き用紙（届出住所等の変更届、配当金振込指定書、単元未満株式買取請求書等）のご請求につきましては、以下のお電話並びにインターネットにより24時間受け付けておりますので、ご利用ください。

TEL：0120-244-479（通話料無料）

インターネットアドレス：<http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

- 上場証券取引所 東京証券取引所 市場第一部
- 公告の方法 電子公告により行います。
公告掲載URL
<http://www.takachiho-kk.co.jp/>
(ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。)
- 1単元の株式数 100株
- 株主優待制度 毎年3月末時点で100株以上保有している株主様に一律お米券3kg分を贈呈



〒160-0004 東京都新宿区四谷1丁目2番8号

TEL 03-3355-1111 (代)

URL <http://www.takachiho-kk.co.jp/>

